

1 実践 「人権意識の育成を図るための実践」

(1) ねらい

○ 人権だよりを発行し、人権教育への理解と関心を高めながら、学校での多種多様な活動の中で、人との関わりを通して互いの人権を尊重し合う意識の育成を推進する。

(2) 人権意識の育成を推進するための3視点

ア 人の長所や頑張り、親切などに気付き、その人を尊重し、人を大切にすることを育てる場面を多く設定する。

イ 弱い立場の人の存在を意識し、その人の不安感や、苦しみを理解する努力をする姿勢やできるだけ緩和させるための配慮をする態度を養う経験を多くする。

ウ 一人一人の考えや行動の違いを個性として認め合い、自分と違うことを責めたり、非難したりしない寛容さや優しさを育てる機会を多くする。

(3) 具体的な実践

ア 人権だより「みとめあい」の発行し、生徒の良さを紹介し、認め合う心を育てる。
人権だよりの中で紹介した内容は下記の通りである。

雨の日の出来事

1学期中の出来事でした。本校教師が柔剣道場の駐車場から車に乗り、帰宅しようとしていると、雨が降る中、駐車場の閉まっていた鉄の門を開けてくれている生徒がいたそうです。その教師が係わっている生徒ではなく、名前も分からない人だったそうです。それなのに、進んで人のために親切にしてくれたのです。人への気遣いができる生徒の存在に触れ、その教師は感動したそうです。

重たい荷物を進んで運ぶ親切に感謝

これも1学期中の出来事でした。むつみ学級へ1台卓球台が入りました。その荷物は、体育館へ届き、むつみ学級の生徒3人と担当教師で体育館からむつみ学級まで運ぼうとして四苦八苦していたら、野球部員が5、6人近づいてきて、「お手伝いしましょうか。」と声を掛けてくれたそうです。言葉に甘えたと、一番重い2枚の板を、校舎の3階にあるむつみ教室まで運び上げてくれたそうです。「運動部員と言えども相当大変な作業だったと思います。」とむつみ担当教師は感謝していました。

暑さに負けず絵のメッセージを制作

今年の夏は史上最強の猛暑となりました。この、暑さと戦っているのは運動部員ばかりではないことを、最近発見しました。美術部員です。本校の飛躍祭に、ステージ上を飾る巨大なアートをこの猛暑と戦いながら制作していたのです。美術室はサウナのようです。窓は少ししか開けられず、汗で作品にシミを作らないように気を付けながらの活動です。内容は飛躍祭当日の発表まで極秘事項なため、活動時間終了が近づくと、絵の具の乾き具合に気を付けながら、模造紙大の部品を何枚も筒状に巻き上げ、片付けをしています。この苦労を何度も何度も繰り返して初めてあの素晴らしい作品になることに感動です。

イ 人権メッセージを募集し、人権意識の育成を推進した。そして、人権だよりの中で、その寄せられたメッセージを紹介した。その人権メッセージの一部を下記に紹介する。

生きている！！ わたしは誰かのために何かをしてあげたとき、そう感じる。誰かのために何かをしてあげることができる喜び。誰かのために何かをしたあとに言われる「ありがとう。」わたしは誰かのために生きる！

私は一度、鼓膜が破れたことがあります。片耳だけですが、聞こえる音がいつもと違い、完治するまで大変不安でした。私は片耳だからまだよかったものの、病気などでいきなり両耳が聞こえなくなってしまう人は大変だろうと思いました。耳だけではなく、目が見えない人や障害を持っている人のために、何かできることがないかと改めて思いました。

「人間らしさ」ってなんだろう。自分で呼吸すること、しっかり歩くこと、人と話すこと・・・しかし、それがしたくてもできない人は、「人間」らしくないのだろうか。人間らしさ相手のことを思いやる心。障害なんて関係なく、相手を思う心が人の「人間らしさ」をつくっていくのだと思う。私はみんなでお互いの心をつくっていききたい。

「笑顔を見ると幸せになる。心があつたかくなる。」だから、あなたも笑って下さい。笑って下さい。大丈夫、あなたは愛されています。振り向けば私たちがいる・・・。だから、私に幸せと喜びを見せて下さい。

ふと、1人になればさみしく感じる さっきまで友達と話していてすごく楽しかった。一緒にいるだけで、重たい心が軽くなった。だから、友達ってすごくいいもんだと思います。人とのつながりは、今もこれからも大切にしていきたいと私は思います。

2 成果

- (1) 人権意識の高まりを強く感じたのは、本校の文化祭「飛躍祭」での輝くばかりの生徒の活躍する姿である。特技を発表する生徒達の姿の輝きであり、クラス対抗の合唱での美しいハーモニー。一人一人の存在を最大限に尊重し、認め合った瞬間の感動である。
- (2) 人権だよりで、人権メッセージを募集し、各クラスの担任教師の協力を得て、素晴らしい内容の人権メッセージを集めることができたことである。そして、その内容を、人権だよりで紹介し、みんなでそれを認め合うことができたことが大きな成果と考える。
- (3) 人権だよりで事例を紹介する中で、人間の魅力、素晴らしさに触れ、進んで人から学ぼう、見習おうとする意欲が育てられ、合わせて、身近な人間関係の中からも人の良さを発見し、見習っていこうとする態度を育てるきっかけを作ることができた。

3 今後の課題

この人権だよりの発行で育てようとした人権意識を、さらに日常の学校生活の中でも、育み、一人一人の生徒の個性を認め、その良さに目を向け、互いに尊重し合える関係を構築していくことが今後の課題である。そのためにも、教師一人一人が、生徒への共感的に理解する目を養い、生徒の良さを発見し、その良さを褒め、励まし、育てていく態度をさらに伸ばしていかなければならないと考える。

また、人権だよりの内容を充実し、魅力ある内容になるように工夫し、愛読者を増やしていく努力もしていくことが必要であると考えます。